

平成29年度 事業報告書

大慈ショートステイ

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《中長期計画》

●最終目標 『心地よい大慈』

●中長期目標

- ①プライベート空間の創設で心地よい住まいの提供
- ②基本介護の向上で自立支援を図り、心地よい生活を支援するケア
- ③次世代を担う優秀な職員の育成

●平成29年度重点目標

『SS充足率97%以上（退所後の実績）を維持・向上を目指し収入の安定を目指す』

①顧客ロイヤリティを高めリピーター率の向上を目指す

ロングショートのごゲストの状態を家族や他職種が共有し観察する事で、適切なケアが出来るようになってきている。ご家族からの相談もあり、今後のケアを職員間で考えていく事が出来る様になった。その結果、ご家族とのコミュニケーションもとれ、頼れる存在としてショートステイを利用して頂ける様になってきている。

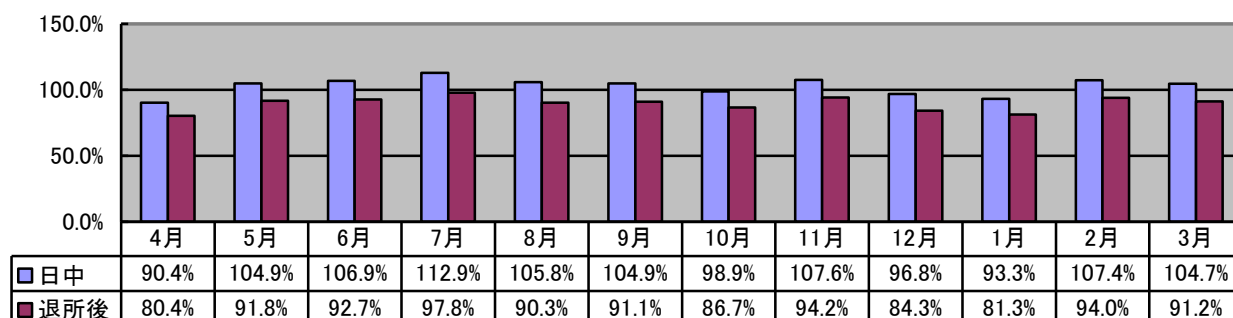
②他事業所との連携強化

担当者会議など他事業所が集まる会議に等には積極的に参加する事が出来た。他ゲストの報告の際などに空席情報を伝えると、緊急時等、早期に連絡が来るようになりロングショートに繋がるケースもあった。

緊急ショートを受け入れもスムーズに出来る様になった。原爆手帳や生活支援ショート等、特殊なケースも多く都度関係部署と話し合いながら解決する事が出来た。又、相談員不在時に緊急ショートを受け入れが2件程あったが、事前に空き情報、受入条件などを他の職員に情報として伝えておく事で混乱なくスムーズに受け入れが出来た。

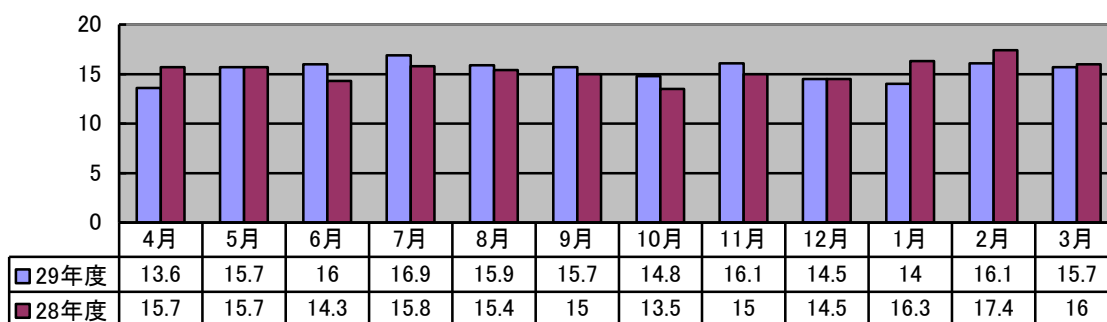
○充足率→日中102.9%、退所後89.7%

(前年平均 日中102.6%、退所後92.2%)



○平均人数→日中15.4人、退所後13.4人

(前年度平均 日中15.7人、退所後13.8人)



●介護度別年齢別等人数表（3月31日時点での実人数）

要介護度	平成29年度				平成28年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	0	0	0	—	0	0	0	—
支援2	3	0	3	86.2歳	3	0	3	88歳
1	53	2	51	88.5歳	5	0	5	89.6歳
2	91	41	50	90.4歳	90	30	60	81歳
3	277	93	184	81.6歳	222	100	122	84.7歳
4	37	0	37	84.0歳	120	41	79	90.6歳
5	26	11	15	80.6歳	55	30	25	80.8歳
合計	487	147	340		492	201	291	
平均介護度		2.7	2.9	2.8		3.0	3.2	3.1
平均年齢		77.4歳	88.4歳	85.1歳		78.2歳	88.9歳	85.7歳
最高年齢		90歳	100歳			89歳	94歳	
最小年齢		60歳	55歳			58歳	63歳	

<栄養科>

<理学療法科>

<看護部>

3. 《行事等の実施内容・反省点》

4. 《会議の実施内容・反省点》

5. 《職員会議・OFF-JT》

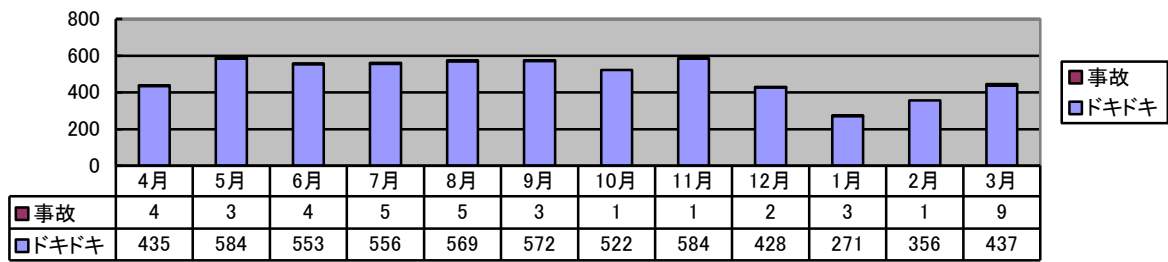
弥勒園同様

6. 《リスクマネジメント報告》

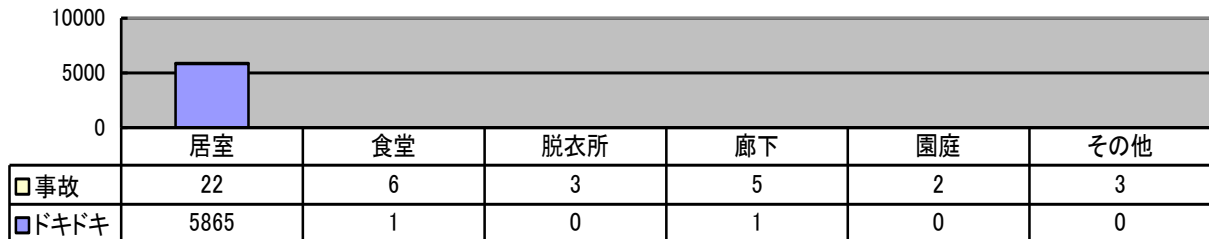
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

①報告件数

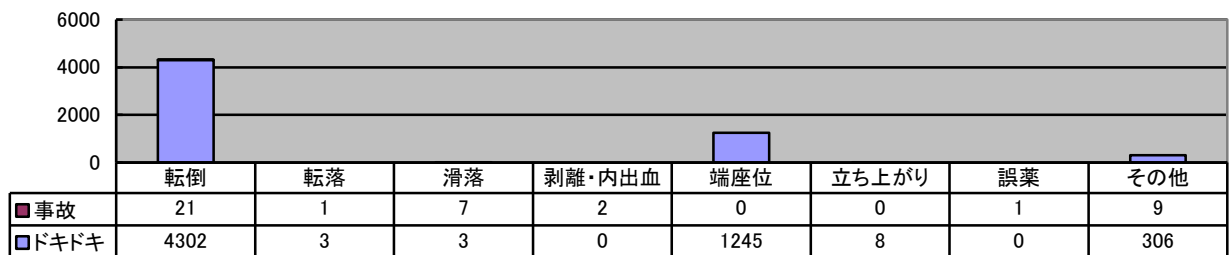
報告件数	平成29年度			報告件数	平成28年度		
	合計件数	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
	5,908件	41件	5,867件		6,786件	60件	6,846件



②発生場所別件数

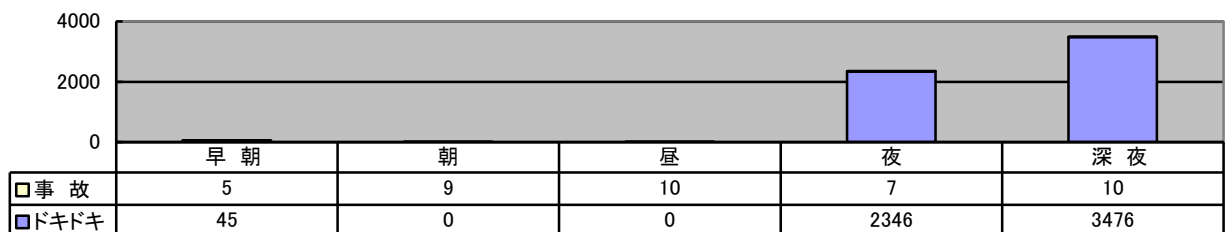


③発生内容別件数



④時間帯別件数

早朝 4 : 00 ~ 6 : 59 朝 7 : 00 ~ 11 : 59 昼 12 : 00 ~ 16 : 59
 夜 17 : 00 ~ 22 : 59 深夜 23 : 00 ~ 3 : 59



⑤まとめ

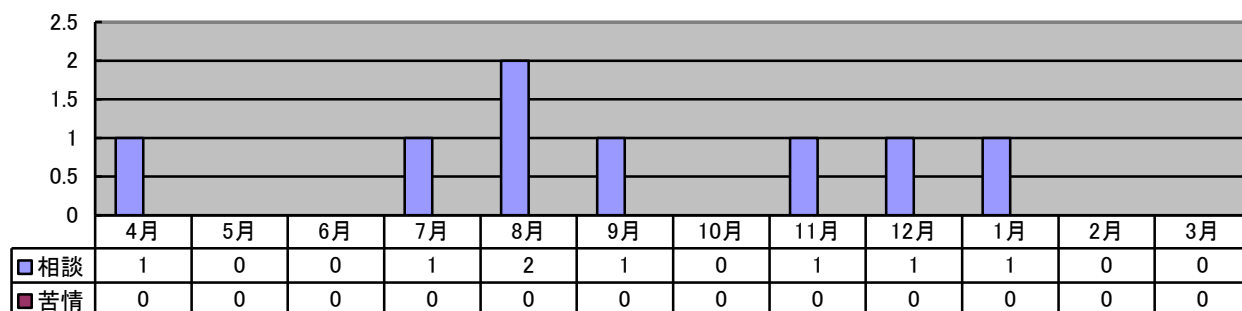
前年度と比較すると事故が19件減少している。プラム棟と同じく、転倒や剥離等の類似事故を防げた事が影響していると思われる。また、前年度はセンサー対応時のPHSやベッドセンサーの取り扱いミスによる事故が多くあったが、遠藤メソッドも活用しながら使用方法の周知徹底を図れた為、減少に繋がったのではないかと考えている。

7. 《苦情・相談結果報告》

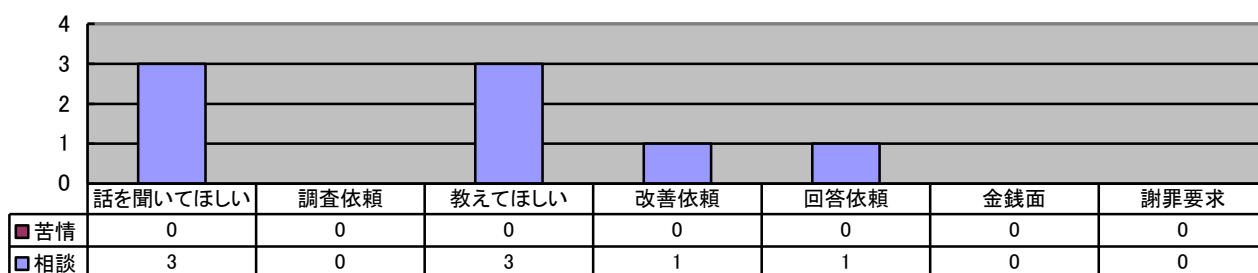
☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

平成29年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	8件	0件	8件		16件	0件	16件



要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

ケース入力ミス、荷物返却忘れ、事故で怪我をされたご家族への説明不足、一般浴槽の老朽化・不潔さ、退所日の居室を明け渡す時間について、排便後の清拭に不手際があり、不衛生な状態での退所、透析時の衣類について、尿器の扱い（衛生管理について）、ケース返却忘れ後のご家族対応。

○まとめ

ケース入力ミスや、尿器の衛生管理、排便後の処理、返却忘れ等で相談に繋がるケースが多く、職員の基礎能力向上が必要と考えている。また、人員不足から業務に追われることも影響しており、情報共有方法やタイムテーブルの見直し、職員指導等に力を入れ、部署としてスキルアップを目指していきたい。

8. 《総括》

新規契約者55件である。内29件は定期利用に繋がっており、ロングショートから、入所される方も増えている。特に12月、1月とロングショートから特養へ入所される方が重なりゲストの確保が出来ず充足率も82%と落ち込んでしまった。ロングショートの待機者確保が課題として残った。

又、ご家族から現状の不安等を、相談して下さる機会も増えており、ゲスト一人一人がそれぞれ抱える問題点を共有し状況にあったケアが出来るようになってきたことで、緊急ショート、生活支援ショートなどの受け入れもスムーズに行なえている。

今後も、個々のニーズに合った対応を迅速に行うことでリピート率の向上に努めたい。